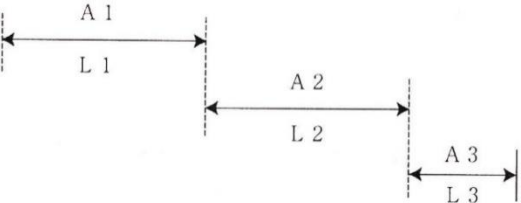
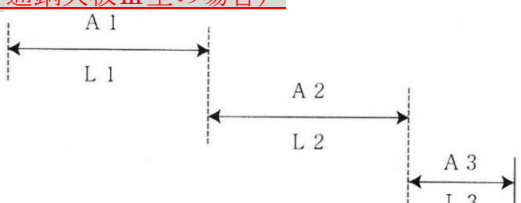


土木工事積算基準（平成 30 年 5 月）の一部修正その 2 新旧比較表

現 行（Ⅱ－7－2）	修 正	備考（内容）
<p>（2） 賃料の算出</p> <p>ア．転用工事における予備日数 5 日と 4 日については、当該 1 現場当り 1 回算入するものと し、転用毎には算入しないこと。</p> <p>イ．鋼矢板及びH鋼材の賃料＝供用 1 日当り賃料×賃料期間（1）</p> <p>ウ．支保材の賃料＝供用 1 日当り賃料×賃料期間（2） ただし、木製の場合は供用回数とする。</p> <p>エ．鋼矢板等の 1 現場あたりにおける使用回数が 2 回以上となるときは、下記により補正率 を乗じて補正することができる。</p> <p>1 現場当りの鋼矢板及びH形鋼の修理費×（n＋1）／2 〃 支保材の修理費 ×（n＋1）／2</p> <p>（注） 1． n は使用回数。 2． 木製支保、横矢板の修理費は計上しない。 3． 覆工板等についても同様の扱いとする。</p> <p>オ．転用する場合の修理費及び損耗費の計算方法</p> <p>B n (施工延長 1 m 当りの修理係数)＝<math>\frac{1/2(\text{施工延長} \div \text{転用延長} + 1) \times \text{転用延長}}{\text{施工延長}}</math>…①</p> <p>矢板重量＝①×単位重量（t／㎡）×平均矢板長×1 …②</p> <p>修理費（1 m 当り）＝②×1 t 当りの修理費 …③</p> <p>修理費＝③×施工延長（m）</p> <p>カ．転用する場合の賃料計算</p> <div></div> <p>全体の賃料＝P×（5 日×L 1＋A 1×L 1＋A 2×L 2＋A 3×L 3＋4 日×L 3） P：施工延長 1 m 当りの賃料 ＝供用 1 日当りの賃料×5 枚／両側m×矢板長（m／枚）×単位重量（kg／m） A：1 工区当りの賃料期間（予備日数 5 日と 4 日を除く） L：1 工区当りの延長</p>	<p>（2） 賃料の算出</p> <p>ア．転用工事における予備日数 5 日と 4 日については、当該 1 現場当り 1 回算入するものと し、転用毎には算入しないこと。</p> <p>イ．鋼矢板及びH鋼材の賃料＝供用 1 日当り賃料×賃料期間（1）</p> <p>ウ．支保材の賃料＝供用 1 日当り賃料×賃料期間（2） ただし、木製の場合は供用回数とする。</p> <p>エ．鋼矢板等の 1 現場あたりにおける使用回数が 2 回以上となるときは、下記により補正率 を乗じて補正することができる。</p> <p>1 現場当りの鋼矢板及びH形鋼の修理費×（n＋1）／2 〃 支保材の修理費 ×（n＋1）／2</p> <p>（注） 1． n は使用回数。 2． 木製支保、横矢板の修理費は計上しない。 3． 覆工板等についても同様の扱いとする。</p> <p>オ．転用する場合の修理費及び損耗費の計算方法</p> <p>B n (施工延長 1 m 当りの修理係数)＝<math>\frac{1/2(\text{施工延長} \div \text{転用延長} + 1) \times \text{転用延長}}{\text{施工延長}}</math>…①</p> <p>矢板重量＝①×単位重量（t／㎡）×平均矢板長×1 …②</p> <p>修理費（1 m 当り）＝②×1 t 当りの修理費 …③</p> <p>修理費＝③×施工延長（m）</p> <p>カ．転用する場合の賃料計算 <u>（普通鋼矢板Ⅲ型の場合）</u></p> <div></div> <p>全体の賃料＝P×（5 日×L 1＋A 1×L 1＋A 2×L 2＋A 3×L 3＋4 日×L 3） P：施工延長 1 m 当りの賃料 ＝供用 1 日当りの賃料×5 枚／両側m×矢板長（m／枚）×単位重量（kg／m） A：1 工区当りの賃料期間（予備日数 5 日と 4 日を除く） L：1 工区当りの延長</p>	<p>文言の追記</p>